



# ゆめ通信

2016.7.1. No.87

発行 日本養豚事業協同組合  
〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-12 JCビル4F  
TEL.03-3597-8385 FAX.03-3539-3120

## 中部支部セミナー開催

全国7か所で行われる16期支部セミナーは、5月20日AP名古屋・名駅での栗木貢男中部支部長の挨拶でスタートしました。中部支部セミナーでの松村昌雄新理事長の挨拶では、重責を担う理事長として「良い豚、良い餌、良い管理」を基本とした運営を引き継いでいくとの抱負と稲吉弘之前理事長の日本養豚事業協同組合に対する功績が語られました。

引き続き、「TPP締結後の養豚業界における規制緩和の必要性について」と題した講演では10項目の養豚対策要請のうち、養豚経営安定対策事業を前提とした「チェックオフ制度の確立」と「配合飼料価格安定制度の取り扱い」について今後の方向性を示しました。

山根逸郎氏（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 細菌・寄生虫研究領域 上級研究員）より国立研究開発法人の業務内容と組織変更について話された後、「ベンチマーキングから見た経営成績」と題した講演が始まりました。自動車産業を例に顧客満足度や不良品率など製造から販売までの幅広いベンチマーキングの意義と手法が説明され、その必要性が示されました。

養豚農家へのベンチマーキングの応用は30項目に上る生産性や販売力の指標毎に比較・分析されたデータの詳細が示され解説されました。特に「感受性分析」は分析された項目ごとにシミュレーションされ改善の優先度合いが把握できることにより、今後の改善計画が明確となることが示され、出席された皆さんの関心を引いていました。全国からレベルの違いのあるモデル3農家の事例紹介がおこなわれ、その解析の仕方や問題点の把握の仕方あるいは目標の設定の仕方等の解説がなされました。2015年の結

果を元に解析されたデータから、生産性の面では産子数・分娩回転率の問題が、販売面からは枝肉重量が課題として指摘されました。

続いて支部セミナー初めての試みであるパネルディスカッションへと移行し、稲吉克仁氏（有限会社マルミファーム代表取締役社長）より「優秀事例から見たシステム養豚へのチャレンジ」と題した講演が行われました。

講演では好成績を維持する秘訣、生産性向上の3要素「オールインオールアウトの生産システム」、「リキッドフィーディング」、「TOPIGSの導入」と経営を維持するための3要素「データの収集と分析」、「人材育成と管理技術」、「地域とのかかわり」が自農場の詳細なベンチマーキングの数値を示しながら解説され、特に、生産面では疾病コントロールの重要性が、販売面では定時・定量・定質な豚の生産に基づく有利な販売の重要性が強調されました。

栗木貢男氏（有限会社ロッセ農場代表取締役社長）をコーディネーターに基調講演を踏まえたパネルディスカッションが始まり、養豚業界の現状の説明の後、「いかに生き残れるか」「売上をいかに高くできるか」を中心とした問いかけに組合員からは「加工付加価値販売」「出荷頭数の増加」「出荷枝肉重量の増加」等活発な論議がなされました。

さらに、「成績の向上」をテーマとした問いかけには、「設備の拡充」「種豚の選定」が議論されました。最後にパネラーの基本に基づいた経営とベンチマーキングの経営への活用の重要性が説かれセミナーは盛況のうちに終了いたしました。（山田）

## 沖縄養豚再生プロジェクト ～嘉数ファーム改善計画続行中！～

(有)サミットベテリナリーサービス  
石川 弘道 石関紗代子

平成27年4月から日本養豚事業協同組合からの依頼を受け、沖縄県の組合員農場の生産性向上に向けて協力することになりました。協力の内容は定期的に農場を訪問し、生産性を阻害している要因を突き止め、改善点を提示して実行してもらうというものです。当初複数の農場を対象にしていたようですが、最終的に嘉数ファームさんだけが手を挙げてくれました。当の嘉数雅人さん自身も当初は「なぜうちがコンサルを受けなければいけないの？面倒だなー。」と思ったそうです。しかし当時の稲吉弘之理事長から「このままではお前の将来はないぞ。」と脅かされて？渋々コンサルを受け入れたそうです。

農場を最初に訪問したのは平成27年4月でした。嘉数ファームは玉城農場と糸満農場の2か所で農場を展開しており、各農場で別々の種豚を使用しています。玉城農場は子豚販売をする子取り経営、糸満農場は肥育までの一貫経営です。最初に農場を訪問した時点では、どちらの農場もPRRSの影響を受け、子豚の状態は良くありませんでした。短期的にはこのPRRSの影響を早く治めることを念頭に、中長期的にはオールインオールアウトの励行とピッグフローの改善を含めた根本的な改善案を提案しました。

PRRSの影響を早く治めるために、下表のようなワクチンプログラムと候補豚への馴致を実行してもらうと同時に、母豚用授乳期飼料および離乳子豚飼料へアイブロシンの添加を勧め実行してもらいました。

|       |                                                                                  |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 種豚    | PRRSワクチン 年4回一斉接種                                                                 |
| 繁殖候補豚 | PRRSワクチン 初回交配前2回接種<br>(初回交配2か月前と1か月前に実施。<br>従来から実施しているヒネ豚との同居は初回交配2か月前に1週間程度実施。) |

ピッグフロー改善のため、先ず2か所に分散していた繁殖農場を糸満農場1か所に集約することになりました。これに伴い母豚数が増える糸満農場では、ストールおよび分娩柵の増築を進めています。糸満農場のピッグフローの問題点は“子豚を収容する豚房が分娩舎と同じ棟の中に同居している”ということでした。沖縄県では時々見かける農場配置ですが、この子豚がPRRSの影響を受け、それが分娩舎にまで波及している状況でした。そこで先ずこの子豚豚房を分娩房に改築することにしたのです。

離乳子豚は子豚ハウス9台と、コンクリート作りのウインドレス離乳舎に収容されるようになっていました。この離乳舎を3部屋に仕切り、オールインオールアウトが実施できるようにしました。離乳舎には直径が1メートルもある大きな排気ファンが複数設置されており、豚の必要換気量を無視したもので、過換気と風の影響により、子豚のPRRS症状が一層悪化しているようでした。そこで豚の収容頭数に見合った換気量を計算し、適正な排気ファンを設置しました。そして豚の発育に沿った必要換気量を提示し、調整してもらうことにしました。

これらの対策が功を奏し、離乳以降の子豚の死亡は減少し、肥育豚の発育も改善されてきています。今後は安定した成績が残せるよう、ピッグフローの改善、優良種豚の導入、基本的管理の徹底などを進めていきます。

当初消極的だった嘉数さんも、農場訪問回数を重ねるにしたがい積極的に対応してくれるようになりました。前回訪問時に提案した改善案がどこまで実施できて、どこまで実施できていないかを明快に話してくれるようになり、改善速度も速まっています。我々は生産者との信頼関係を一番大事にしています。この信頼関係を築けてこそ、農場の改善が達成できるものと思います。今後も嘉数さんとタッグを組み、農場成績の改善に貢献できれば幸いです。

## 豚事協若手経営者育成塾第7講座開催

松村昌雄理事長の挨拶では、豚事協若手経営者育成塾が前稲吉弘之理事長の熱い思いで創設されたことが語られ、塾生の皆様にはしっかりと学んで勝ち残るためにその知識を十分活かして欲しいとの激励の言葉で、平成28年6月7日～8日AP浜松町で豚事協若手経営者育成塾第7講座が開始されました。

栗木鋭三副理事長の「鶏の視点から学ぶ養豚経営～「労働装備コスト」の考え方～」と題した講演では、栗木家の成り立ちが披露され、昭和50年代以降の近代化が実現され生産・販売一体の経営基盤の確立を経て、生き残るための目標が明確となり安定した経営の営みが確立したことが話されました。

今後の事業展開では、経営者が持つべき知識は経理でもなく、また会計出納でもない。どうやって儲けるか、いかに現金が残る体質にするかの視点で決算書類である貸借対照表、損益計算書を活用することの必要性が強調されました。

企業を倒産させないこと、そのためのキャッシュフローが大事となることが話され、事業計画書を作成して常実績との比較を行うこと、比較から見出された課題を「見える化」して改革を実行することが重要であることが説明されました。

質疑応答では、管理面・設備面に亘る多くの質問に竹延哲治理事も加わった丁寧な回答に塾生も納得する講義となりました。

「豚肉の肉質を決定する要因」と題しての近畿大学生物理工学部食品安全工学科入江正和教授の講義は、枝肉格付けの意味と必要性から始まり、豚肉の品質については、特に食味とおいしさを、肉の違いで評価する「実験型」と人の好みを評価する「消費者型」とに分けての説明がなされました。

さらにドリップ、PSE（フケ肉）、DFD（肉色が赤黒くて濃く（dark）、肉質がしまっていてかたく（firm）、断面が乾燥した（dry）状態で死後酸性に変化しない肉に多い）発生のメカニズムや脂肪の質について、その対応策を交えての講義に塾生も聞き入っていました。

休憩をはさんで、「勝ち残りのビジネスモデル」と題して各班の社長役の方からのプレゼンテーションが行われました。

各班のプレゼンテーションの後、竹延哲治理事から2日目のグループ討議、あるいは第8講座に繋がる暖かで厳しい貴重なコメントが贈られました。

6月8日は「経営に活かす会計」と題して野田弘子公認会計士より経営のツールとしての管理会計の基本と資金繰りについて講義されました。

松下幸之助氏の「会社は公器である」との言葉で始まった講義で会社の歴史と意義が説明されました。

決算書の講義では、示された具体的な数値を資料に書き込み確認しながら進めていく手法がとられ、塾生の中にしっかりと定着したことと思われます。

続いて会計のルールが詳細に説明された後、損益分岐点・管理会計の説明を受け、利益の源泉から次を育てる投資へと話が広がりあっという間の3時間の講義が終了いたしました。

グループディスカッションでは、「社長」「財務」「豚舎設計」「人事・総務」「規制緩和」の各班に分かれ、それぞれの役割に応じた議論を行い各班代表が議論を進めたことと、課題をショートスピーチして8月23日～24日AP浜松町で開催される第8講座に繋がりを持たせた中で第7講座が終了致しました。（山田）



シリーズ 豚に翔ける夢  
農場訪問ルポ

# 雪深い北陸で頑張っています

石川県羽咋郡 (有)ティーピーエフ

(有)ティーピーエフがある宝達志水町は人口13,000人（とても1万人を超える大きな町には見えませんでした）。兼六園で有名な金沢市からIRいしかわ鉄道・JR七尾線と電車を乗り継いで約1時間、輪島塗で名高い能登半島七尾市の30kmくらい手前にあります。車で少し走って富山県との県境を越えると、日本の養豚コンサルタントの草分けであります山本一郎先生が住む氷見市があります。

北陸新幹線の開通で東京から金沢間が近くなり（最短2時間半）、石川・富山両県の観光がクローズアップされていますが、宝達志水町は観光名所も少なくさみしいところ。尤も養豚業を営業するにはあまり賑やかになっても困るでしょう。近く（2kmくらい離れたところ）には弘法大師が杖で岩をついたら水がでたという『押しの泉』があり、これが名前の由来だそうです。また、能登地方最高峰の宝達山が控えています（Wikipedia）。ネットで調べると『オムライスの里』というのが出てきます。鶏卵の生産者が多いのは富山県だったと思うのですが。

農場の周囲は水田ばかり。水田は堆肥をあまり必要としないため堆肥を捌くのに苦労するだろうと思いましたが、案の定富山まで運んでいるそうです。

## ●農場の歴史

現社長は谷口昇さんで、平成15年に農場に入り13年が経ちましたとのこと。先代の谷口郁男さんの次男で、長男の弘祐さんは東海ブリーディングの社長をしています。昇さんと三男の郁<sup>かおる</sup>さんとともにティーピーエフを経営しています。

従業員は4人。平成9年にやまびこ会に入会、全てやまびこの飼料を使用しています。やまびこ会は日本養豚事業協同組合のモデルとなった会で、小規模の養豚家が一つになって飼料を委託製造し購入していま

す。中心は愛知県周辺の養豚家ですが、この北陸でも数件の養豚家が参加しています。飼料の配合はゆめシリーズが土台となっています。皆さんやまびこ会の会員であると同時に豚事協の会員でもあります。

当初は親子全員が(有)ティーピーエフで養豚に携わっていましたが、5年前に湯浅商事がTopigs20の生産農場を始めるに当たり、父親である谷口郁夫さんと長男の弘祐さんが東海ブリーディング(株)に移動したため、次男の昇さんが経営者となって頑張っています。

現在は飼育管理のシステムはウィークリーなどどれも採用しておらず、母豚140頭の一貫生産、分娩、離乳はオールインオールアウト（AIAO）ですが、子豚期以降はAIAOできておらずトコロテン式の管理です。それでも子豚の大きさは目を見張るほどよく揃っており、ヒネ豚が1頭しか見当たらなかったのには驚きました。郁夫さんの飼育管理技術の素晴らしさは周知の事実ですが、(有)ティーピーエフの管理技術も相当なものです。豚舎の構造上無理なのかもしれませんが、これで何らかのシステムが採用できてAIAOができる飼育管理になれば、種豚がTopigs20であることと併せると、JASVベンチマーキング2015でいくつもの賞を受賞した「(有)マルミファーム」を脅かす成績が出るのではないのでしょうか。

## ●今後の方向性

飼料に関しては「やまびこ会」がある限りやまびこの飼料から離れるつもりはありません。飼料の栄養価も形態についても満足しています。飼料の内容（栄養や原料組成）について特に詳しく知ろうとも思っていますが、子豚・肉豚の体型、上物率、発育日数どれも不満はありませんので、この栄養価を維持してもらえればいいと思っています。

ただ、経営的な勉強をもっと深く勉強したいと思っ

| 繁殖成績    |      |       | 肥育成績     |     |       |
|---------|------|-------|----------|-----|-------|
| 項目      | 単位   | 数値    | 項目       | 単位  | 数値    |
| 総産仔数    | 頭/腹  | 13.88 | 肉豚出荷体重   | Kg  | 117.6 |
| 死産子豚数   | 々    | 1.22  | 平均枝肉重量   | 々   | 75.3  |
| 生存子豚数   | 々    | 12.66 | 肉豚出荷日齢   | 日   | 168   |
| 離乳子豚数   | 々    | 12.03 | 上物率      | %   | 54.0  |
| 哺乳子豚斃死率 | %    | 5.6   | 肥育豚飼料要求率 |     | 2.52  |
| 分娩回転率   | 回    | 2.30  | 農場飼料要求率  |     | 2.94  |
| 種付け分娩率  | %    | 100   | 肥育豚斃死率   | %   | 0.69  |
| 雌豚廃用率   | 々    | 60.6  | 離乳後斃死率   | %   | 3.29  |
| 雄豚廃用率   | 々    | 39.1  | 年間肉豚出荷頭数 | 頭/腹 | 26.9  |
| 年間離乳子豚数 | 頭/腹  | 27.7  |          |     |       |
| 種豚飼料量   | Kg/年 | 1,236 |          |     |       |
| 繁殖指標    |      | 129.3 | 肥育指標     |     | 224.9 |

ています。同時にヨーロッパの養豚を見学して勉強し、身に着けたいと思っています。チャンスがあれば豚事協の海外セミナーに同行して欲しいと思います。

飼育システムについても勉強したいようですが、現在の豚舎構成でスリーセブンやフォーファイブが取り入れられるものかどうか分かりません。分娩舎は1室8分娩房で4室32分娩房となっていますので、現在の140頭の母豚を飼育するには離乳したら空けて掃除をし、すぐ次の母豚を導入して分娩させる、今の方法を取らなければ豚舎全体が回転していきません。

母豚についてはTopigs20から変更するつもりはありません。手をかければそれだけ答えてくれる種豚だと思っています。肉豚の成績についてもクランブル飼料を使っていますが農場FCで2.94です。満足はしていませんが、肉豚舎が踏込養豚で、AIAOのできないコンベの養豚場では頑張っている成績だと思います。交配雄豚は山本先生の系統を購入しており、精液はメンデルジャパンから購入しています。

## ●成績など

2015年1月～12月、1年間の成績は上表の通りです（以下、JASVの数値はPigINFO集計結果2016年3月26日現在成績表（全体）の資料によります）。総産子数は13.88頭（JASV中央値は12.62頭）と高い数値が出ていますが、離乳頭数になると12.03頭（JASV中央値は10.24頭）となります。JASVの中央値からみると素晴らしい数値です。死産数はJASVの1.23頭に対し1.22頭と0.01頭低い値ですが、ほぼ同じ数字です。この辺りが離乳頭数が伸びない原因かもしれません。ま

た分娩回転率もJASVの2.35に比べると2.30と0.05回低く出ています。総産子数が高いのに年間離乳頭数が伸びないのはここに原因があるのでしょうか。また種付け後分娩率が92.1%（JASV中央値は87.3%）なのに回転率が伸びないのはどこに問題があるのでしょうか。母豚の飼料消費量が1,236kgと出ていますのでかなり食わせている方で良い管理ができていると思いますので、飼料摂取量が発情再帰に影響を与えているようには思えません。不思議です。雌豚の廃用が多い（更新率が高い）のが数値に影響しているのでしょうか。

農場FCが2.94（肉豚で2.52）と飼料がクランブルの割には低くなっています。見た目の飼育子豚の状況が良いのにもかかわらず離乳後の子豚死亡率が3.29%となっているのと、肥育が踏込豚舎なのが原因と思われます。

昨年度の繁殖指標はやまびこ会の中で(有)マルミファーム、河合良侑さんに次いで3位、肥育豚指標はマルミファームに次いで2位で、総合成績は2位でした。（矢嶋）



谷口 昇氏

**事務局からの  
お知らせ**

## 豚事協・取扱商品のご案内

日本養豚事業協同組合では、組合員の皆様が必要とする資材を可能な限り安く提供することで皆様の経営に役立てていただけるよう、下記のような商品を取り扱っています。（詳細は“共同購入ご利用の手引き”参照。）

### 【飼料】

豚事協では指定配合飼料『ゆめシリーズ』をフィード・ワン(株)、九州昭和産業(株)、琉球飼料(株)の3社で委託製造しています。特徴としては、全粒粉碎トウモロコシを使用していること、配合原料をできるだけ少なくし単純配合として皆様の安心に答えること、リンをはじめとした植物中のミネラルをできるだけ多く消化できるようフィターゼを使用していることです。関東・九州・沖縄では消化率の高いクランプルも流通し始めました。皆様のご希望があれば全国に広めたいと思っています。

### 【種豚】

豚舎で建築に最もお金がかかるのが繁殖部門です。日本の養豚は一貫生産が殆どで、この部門のコストダウンが最も重要です。そのためには一腹あたりの離乳頭数の増加が欠かせません。

豚事協で扱っている種豚『Topigs』はオランダで改良された品種で飼育しやすく、一腹あたり離乳頭数が多いのが特徴です。候補豚の育成をしっかりとすれば連産性も高く、確実に一腹あたり離乳頭数を増やしてくれます。

### 【飼料配合関連資材】

自家配合飼料を製造している組合員、配合飼料を購入しているがビタミンやミネラルの添加量に不安があるといった方々にお勧めです。

ビタミンに関しては『プリンスシリーズ』、ミネラルに関しては『ゆめマミーB』があります。機能性を追うものとしては、下痢の予防に寄与する『ゆめアシッド』、酵素の力で子豚を健康にする『ピシィマックスD・S』、肉のドリップを少なくする『ブドウのチカラ』、赤肉増体や母豚の泌乳に大切な『リジン』も扱っています。

### 【人工授精（AI）関連資材】

人工授精用精液・未経産用カテーテル・経産用カテーテル・深部注入用カテーテル・精液ボトル・精

液希釈剤・AIバンド・超音波画像診断装置・生物顕微鏡・精子活力測定用スライド加温版があります。人工授精用精液は酸肉性で高能力と評判の高い(有)メンデルジャパンの精液を取り扱っています。カテーテルは中国製ですが、衛生管理に特に気を使い、エチレングス滅菌を義務付けるとともに、抜き取りで一般生菌数の検査をして安全性を確かめています。

### 【環境関連商品】

脱臭剤は2種類で、植物抽出発酵液・乳酸菌・ビフィズス菌の力で腸内細菌叢を整え糞の臭いを抑えてくれる『ゆめ脱臭RKS』と、フミン酸と乳酸菌で臭いの物質の排出を少なくする『ゆめ脱臭NYK』です。

高分子凝集剤は歴史がある『ゆめフロック』と『トンフロック』、そして新たに加わった『ゆめフロック2』を採用しています。消泡剤は『フォームクリンM-40T』を扱っています。

その他、セーフティー針・分娩柵・ストール、給餌用の機器では母豚用フィーダー、餌付け用のステンレスカップ、哺乳期・離乳期子豚用のミニラウンドフィーダーを揃えています。給水機器ではウォーターカップとステンレスニップルを、搬送用具では女性にも優しい搬送機『イージーGO』や『リアルバロー』、死亡豚を運び出すために使う『カーカスカート』を、暖房機器では『ランプヒーター』、そしてP2脂肪測定器『エニースキャンBF』と『リーンメーター』があります。扇風機『快適ファン』、水の気化熱を利用した『エコクーラー』、消毒薬を散布する『プルスフォグ』と『霧たまPlus』、肉豚の出荷体重を揃えるための『豚衡器』、不要な瓶を細かく砕いてくれる『ピンクラッシャー』、生まれたばかりの子豚に飲ませて活力を与える『ゆめTOPIGS-F』（中鎖脂肪酸）、書きやすく消えにくい『養豚用クレヨン』などの品揃えがあります。

# JASVベンチマーキングセミナー 2015開催

4月28日に東京都内に於いて「JASVベンチマーキングセミナー 2015」が開催されました。2015年1月～12月間のベンチマーキング解析結果を元に、下記5部門での上位三者および各部門で成績が大きく改善された方を部門毎に「Jump Up賞」としてJASVが表彰し、豚事協から副賞として賞金を授与しました。

新たに「農場枝肉FCR部門」内に“配合飼料最優秀賞”が設けられ、全受賞者21農場のうち、17農場が豚事協の組合員で、全体の8割を占めました。

2010年と2015年の解析結果でそれぞれの下位10%と上位10%の差を比較すると、1母豚あたり年間粗利益が17万円から29万円、1母豚あたり年間販売額が21万円から35万円、1肉豚あたり販売額が4,368円から4,522円、1母豚あたり年間離乳子豚数が5.41頭から7.75頭、1腹あたり生存産子数が1.72頭から2.69頭となっており、その差がどんどん開きつつあることが判りました。

各部門の最優秀賞は下記の通りです。 (東野)

- ・母豚1頭当たり粗利益部門：有限会社マルミファーム（組合員）
- ・母豚1頭当たり出荷枝肉重量部門：有限会社マルミファーム（組合員）
- ・母豚1頭当たり離乳子豚数部門：有限会社細川農興（組合員）
- ・農場枝肉FCR部門：有限会社SEW大西海ファーム
- ・農場枝肉FCR部門（配合飼料）：有限会社睦美ファーム（組合員）
- ・離乳後事故率部門：有限会社東総ファーム

事務局からの  
お知らせ

## ホームページリニューアルに伴う 情報提供のお願い

従来豚事協ホームページに設けていた「情報発信」ページを、組合員のみなさんのいろんな取り組みを紹介するページにリニューアルいたします。

農場の生産性や環境維持に対する取り組みの情報、銘柄豚情報、直売所情報、レストラン情報、地域との交流等、組合員のみなさんが行っているいろんな取り組みについての情報をお寄せいただき、掲載するページにしたいと考えています。写真は3枚まで掲載可能です。かしこまった文章でなくて結構ですので、是非農場経営やその他の取り組みについての情報をお寄せください。掲載に当っては皆様とご相談しながらページを作り上げていきたいと思っています。

ホームページへのアクセスは会員のみ可能となっていますが、情報を掲載することで、お店のPRになり、組合員相互の交流が深まると同時に、何かにチャレンジしたいと考えている組合員の参考になるものと思います。

情報をご提供いただける方は、電話、ファックス、またはメール（info@tonjikyo.or.jp）、お手紙など何でも結構です。「ホームページ・情報発信掲載希望」の旨、ご連絡ください。追って、事務局より、登録フォームを送付しますので、そちらにご記入の上、ご返信をお願いいたします。組合の連帯を深めるため是非多くの組合員のご協力をお願いいたします。

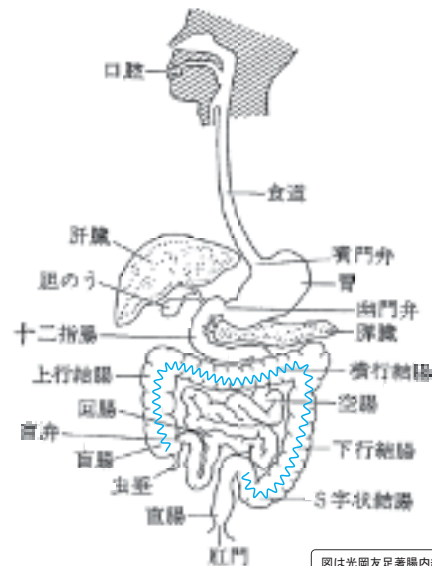


## 《大腸》

大腸は水分とミネラルの吸収が仕事だと教わりました。最近、豚が大腸で酪酸などの短鎖の脂肪酸を吸収して、一日に必要なエネルギーの10～30%を摂っていることが分かってきました。下痢をさせるとこのエネルギーが取れなくなり、痩せてしまいます。

短鎖の脂肪酸を作るのは酪酸菌などの善玉菌とは言われたい細菌です。大腸にとって乳酸菌ばかりがいいのではなくバランスが大事です。

大腸は煮ても焼いても美味しいですね。洗いが弱くてちょっと臭いのが残っているくらいが旨いと思います。テッポウと呼ばれる直腸は旨いのですがなかなか手に入りません。



図は光岡友足著腸内細菌の話から

## ● ● ● 豚事協の年間行事 ● ● ●

### 理 事 会

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 第 1 回 | 平成28年 1月22日 (金) (東京) |
| 第 2 回 | 平成28年 2月26日 (金) (東京) |
| 第 3 回 | 平成28年 4月15日 (金) (東京) |
| 第 4 回 | 平成28年 7月22日 (金) (東京) |
| 第 5 回 | 平成28年10月21日 (金) (東京) |

### 支 部 会

|           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 中 部 支 部   | 平成28年 5月20日 (金) (名古屋) |
| 関 東 支 部   | 平成28年 7月 8日 (金) (東京)  |
| 北 海 道 支 部 | 平成28年 7月15日 (金) (札幌)  |
| 東 北 支 部   | 平成28年 8月26日 (金) (盛岡)  |
| 中 四 国 支 部 | 平成28年 9月16日 (金) (松山)  |
| 九 州 支 部   | 平成28年10月14日 (金) (熊本)  |
| 沖 縄 支 部   | 平成28年11月18日 (金) (那覇)  |

### 女 性 部

|            |                              |
|------------|------------------------------|
| 第8回女性部セミナー | 平成28年 9月12日 (月)～13日 (火) (東京) |
|------------|------------------------------|

### そ の 他

|              |                                    |
|--------------|------------------------------------|
| 若手経営者育成塾第6講座 | 平成28年 3月 8日 (火)～9日 (水) (東京)        |
| 若手経営者育成塾第7講座 | 平成28年 6月 7日 (火)～8日 (水) (東京)        |
| 若手経営者育成塾第8講座 | 平成28年 8月23日 (火)～24日 (水) (東京)       |
| 海外視察研修       | 平成28年11月12日 (土)～19日 (土) (オランダ・ドイツ) |

※青字は平成28年7月1日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性もありますこと、ご了承下さい。

### 編 集 後 記

\*\*\*

「在庫がなくなってきたので急ぎでお願いします」という資料の注文をたまに受けることがあります。消耗品の在庫が切れて生産性に影響が出てはいけなく、なるべくご希望に沿うような対応を心がけていますが、たまにメーカーの在庫切れなどもあり、やむ無くお待たせしてしまうこともあります。申し訳なく思うと同時に(5Sやっているのかなあ。やって欲しいなあ。)と思うこともあります。日頃在庫の管理が出来ていれば、そろそろなくなる頃だと気づくのも早くなるのではないかと思います。きっと日頃の作業に終わって、やりたくても5Sに取り組み時間がないとされているのだろうと考えて、ふと自分がそうであることに気づき恥ずかしくなりました。いつか時間が出来たら、一気に書類を整理しようと思ってどのくらい経つのでしょうか。未だ何も改善されていないことにハッと気づかされました。目の前の仕事を次から次へとこなすことに精一杯で、書類の整理や今やらなくても良いことは後回しになっていました。また、1つのことをやり終える途中で、他にやらなければならないことを思い出し、忘れないうちに、そっちに手を出し始め、机の上は書類で一杯になることもしょっちゅう。反省することしきり。これでは頭の整理も出来ず、時間も無駄にしていまいかねません。まずは、その日やらなければいけないことの優先順位を決めてから、それを順番にこなしていくようにしようと思いました。文字にして見ると当たり前のことが出来ていなかったことを再認識させられますね。最初からいろいろ決めるより、1つずつ変えていけば、大きな負担にはならず、少しずつ改善出来るのではないかと思います。5Sへの取り組みがまだの方は、私と同じようにまずは簡単な第一歩を見つけてチャレンジしてみませんか？